目を致らそうと答める冷本が微値はいしなかった。 11 四 幽霊傘という化け物がいる。 シャッターの下りた店先で俺は煙草を喫んでいた。降り

再び動払窓校へ目まやこす。 果幼覞帯以手を依むていす。

出した雨は弱まる気配もない。

百鬼夜行 十番勝負

出る

24

(c) 2014 - 2015 F-+ W

http://www.mopstudio.jp/ 使用画像: ヒューマンピクトグラム 2.0 http://pictogram2.com/

付用フォント : モップスタジオ

● 目入道というかも対ないる。

その果材效致い立っている。当目依題帯以翳はれている。

御お果の薬型を周囲へ唇はが。気が、その割い果お消み

引かれ、足は浮き上がった。柄を離した俺は地面に尻餅を

0.排谷 ------ 0.排口

傘は空へと遠ざかっていった。

足元に傘が転がっている。渡りに船と開いた途端、腕が

化け物がないと思うのはかえってほんとうの迷信である

の作成図を使用しています。 デザイン、楠樹暖様(@kusunokidan)

本社の (muririnod®) 隸 muririnod ※

tumblr: http://donut-st.tumblr.com/

基絡先 twitter: @donut_no_ana 2015年2月10日改 発行日 2014年8月24日発行

ツヤード 皆計

十番勝負

負裫番十 行办患百

668

鬼夜行絵巻物である。それをひもといてその怪異に戦慄す 宇宙は永久に怪異に満ちている。あらゆる科学の書物は百 る気持ちがなくなれば、もう科学は死んでしまうのである。

寺田寅彦著「化け物の進化」より

12

負棚番十 行办鬼百

割い財母な守んずいま。 類の散をはい、 挙払帰限へ向な う。気は、母おかの語をあなまで聞んず、かしいと言下に

「こめとといるら

縁側コ気にするると財母の姿体見えない。

あいた。

「あの婆ちん。今郊沿神汁も」

5 煙々羅という化け物がいる。

煙の重なりに柔らかい影が浮かび上がる。笑っている女 俺は紫煙で輪を拵え、税に入っていた。

않

留守なの依主人の政事おない。 神尉 引駐 び 衛 は は

待さくささいと斑が貼られていた。

郊水が剛から古を垂らし目形を描いか野灯がった。

「

これ

は

」

しかし、神心向か下がっている。

訃報を伝える友人の言葉は遠く、俺は彼女のえくぼを思 「なあ知ってたか?」 記憶を探る俺を他所に黒電話が鳴り出す。

蚤の向こでから小ちお湯が近付いていす。

の無極調というとは極いる。

「毒地で、毒地で、84半でも用し」

盲い、対多突い式巻人である。

現世をさまよう

いまだ人という化け物に至れず

しる毒地

い出していた。

対阜県代多受け取りいかももの代でスロへ手をはけず。

思言はというといる。

百鬼夜行 十番勝負

謝るより越り、音な広りを憲はかる。 羅袖 ご水 作し 書

か、動ね空辰を永めて되難いす。

₹

き人が背中の琵琶を不らし始めず。

| は来る中に見ってあると下地も布き消えていた。

見け初芸生コシーツや力がり、踏みら小さな輝を願い去 虽な同える。とんさ掛け国卦字。 かお大申まひでい合而。

3 4 日本職という出も対ないる。

負棚番十 行势東百

負棚番十 行ቃ東百

勝瀬の子掛式るでは。玄事以付き合みちれ式挙向以子典

の世話とは嫌いなる。

「さ好とくおら」 ランつ理

なかった。

拍子木の音が家中まで響いてくる。最近、不審火が絶え

「怖い、怖い」

るというといるといる。

6

がっている。

「大事ない。水神様がいらっしゃる」

見回すが、誰の姿もなかった。井戸の傍に石が幾つか転

「明日は我が身」

縁側を渡るしな俺は呟きを捉える。

かたなく刻い城ってあったホールを下掛と投わ合った。

線香の製化票パ、下拠の姿材敷らい汁。

こそこそ岩という化け物がいる。

「まだだよ。 もう少しだけ」

悲劇が土がです。

震えを覚えていた。

いつしか怪異は消え失せたが、灯台を仰ぐ俺の耳はその

窓を白いずのな風る。見る間い獺の遠へ流され、下井の窓を白いずのな風る。見る間い獺の遠へ流され、下井の

小豆洗いという化け物がいる。

家中に札を貼る。 たちまち眠気が差し、 籠の中で小石を揺するような繰り返しが浴室を満たす。 湯船に浸かるといつもその音がした。 幾度か溺れかけた。 心配した母は、

百鬼夜行 十番勝負